

## 目標達成計画

作成日: 平成 26 年 4 月 23 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	急変時や終末期に向けた入居者及びご家族の意向確認や事業所としての具体的な考えや支援方法の知識が十分ではない。	終末期支援や看取りについての知識を身に付けることで、スタッフの不安感の解消をはかる。 終末期や急変時に向けた対応について、入居者及びご家族の意向を把握したうえで、事業所のできることを見極めた支援体制づくりができる。	終末期支援や急変時の医療に関する勉強会の実施。 事前指定書を用いて急変時などに、どういう治療を望むのか、より具体的な意向を確認する。 法人及び事業所としての終末期支援の在り方を検討、再確認する。	12ヶ月
2	35	火災に対する訓練は行っているが、地震などの自然災害についての訓練や対応についての知識が不十分。	地震などの自然災害に備え知識を身につけた支援、対応ができる。	自然災害とはどのようなものがあるか知り、どういった対応や支援が必要とされるのかを研修会や訓練を通して理解する。	12ヶ月
3	40 45 2	入居者一人一人気持ちよく、快適に過ごしていただけるよう努めているが、入居者の立場になって、さらに配慮すべき支援がある。	入居者の日常生活に関わる環境を見直し、細やかな介助の中にも、その人の立場に立って考える事で気持ち良く、より快適な生活支援の提供ができる。	食事への関心が持てたり、気持ちよく食べていただけるように配慮することで、楽しい食事時間を提供する。 脱衣所の掃除用品を整理し、楽しく入浴していただける空間作りを行う。 さりげなく季節の草花を飾ることで季節感のある空間作りを行う。	6ヶ月
4	2	地域資源を活かした交流が不足している。	地域資源を活用した祖語交流の機会をつくる。	地域交流のきっかけづくりとして、積極的に地域へ出向く機会をつくる。	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。